

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (中)・実験を行うときには「予想を立てる」「話し合いをする」「結果をまとめる」など一連の活動を行うなど、主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。
- (高)・実験を行うにあたり、結果を自分で予想したり、友達と比べたりしながら、根拠をもって考察することで主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。

(2) 課題

- (中)・実験結果を分かりやすく記録し、実験結果に基づいた考察を行い、学んだことを自分の生活に生かすために、ノートの活用、学習プロセスの意識化、理科的情報の提示を意図的計画的に行う。
- (高)・主体的に学習に取り組む態度は育ちつつあるが、決して十分とは言えない。目標値に達成できるよう、ICT機器の活用など、これからも導入の工夫等を意図的・計画的に行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	・平均正答率は、基礎・活用ともにわずかながら目標値を上回っている。 ・「光のせいしつ」に関しては6ポイント上回っている。		
第5学年	・平均正答率は、目標値から9ポイントほど下回っている。 ・内容別正答率では、「物のあたため方」については、目標値から16ポイント下回っている。	・全体の平均正答率は目標値に届いておらず、領域別にみると知識・技能の点数が目標点から離れてしまっている。 ・分野別にみると「風やゴムのはたらき」は、概ね目標値に近づいている。(第4学年時)	
第6学年	・正答率は目標値に対して、基礎で8ポイント、活用で9ポイント下回っているが、昨年度と比較すると1ポイントとわずかながら目標値に近づいている。 ・観点別でも「主体的に学習に取り組む態度」では目標値を13ポイント下回ったが、昨年度からは2ポイント改善が見られる。	・正答率は目標値に対して、基礎で9ポイント、活用で10ポイント下回っている。 ・観点別では目標値に対して「主体的に学習に取り組む態度」で15ポイント下回っている。(第5学年時)	・正答率は目標値に対して、基礎で5ポイント、活用で7ポイント下回っている。 ・観点別では目標値に対して「自然事象についての知識・理解」で8ポイント、「科学的な思考・表現」「科学的な思考・表現」で6ポイント下回った。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識を身に付けることは、おおむねできているが、器具を使って調べることに関して、その過程や得られた結果を分かりやすく記録することが困難なことがある。	・問題発見と解決の過程で、差異や共通点に目を向けて、問題を見出すことはできているが、根拠のある予想や仮説を立て、解決すべき問題を自ら見出したり、得られた結果を基に考察したりすることが困難なことがある。	・事物・現象に関して、進んで関わり、他者とかかわりながら問題解決を図る過程において、学んだことを次の学習や生活に生かそうとする意欲がなかなかもてないことがある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値からは両学年ともに10ポイントほど下回っている。授業中やプレテストの結果では、概ね理解をしているが、なかなか知識として定着していない。	・目標値からは両学年とも10ポイント近く下回っている。予想・計画・実験・結果・考察と実験のたびに考えさせているが、まだ成果が数字となって表れていない。継続したい。	・6年生で13ポイント、5年生で18ポイント下回っている。 ・身の回りの生活と学習としての理科とが十分結びついているとは言えない。関連させた導入をさらに取り入れたい。

3 授業改善のポイント（観点別）【◎は重点項目】

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章による説明のほか、簡単な絵・図やグラフを使って分かりやすく表現することができるようにする。そのために、友達のノートを参考にさせて、適切な表現方法の習熟化を図る。	・各学年に示されている問題解決の力のみならず、問題発見→予想→観察・実験→考察・表現という、一連の過程を常に意識させ、学習のプロセスが自然に身に付けられるようにする。	◎学校内や自分が住む地域内で容易に観察できる自然現象や生き物について、年間を通して継続的に目を向けようとする姿勢を身に付けさせる。そのために、教師が、日ごろから、理科学習に関連性のある近隣情報を紹介して、興味・関心を持たせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実物や図、表、グラフなどを使って、見た目では分かりにくい変化について、より確かな知識や表現力を身に付けさせる。	・学習したことを、記述で答えたり説明したりできるよう、ノート指導やプレテスト等で学習内容の定着を確認していく。	◎生活に根ざした学習内容や、体験的に学ぶ活動をしっかりと計画・準備し、興味や関心を喚起し学習内容の定着につなげる。